

樹種別低下傾向に差

森林内放射能分布

農水省はこのほど、福島県森林内の放射性物質の分布状況調査結果を発表した。福島第一原子力発電所からの距離が異なる川内村、大玉村、只見町で、森林総合研究所と連携し一年度より実施しているもので、土壌や落葉層、樹木の葉や幹など、部位別の放射性セシウムの濃度と、森林全体の放射性セシウム蓄積量を調査している。三町村に共通の調査樹種としてスギを選定している。

今回、発表された一三年度調査結果ではまず、一三年度に調査が行われた箇所、高さ1mの空間線量率が七〇〜九一%に低下していることがわかった。葉や枝、樹皮など、部位別の放射性セシウム濃度も、概ね低下傾向にあり、スギの葉の濃度は一三年度の三〇〜七二%に、アカマツの葉の濃度は八%に低下している一方、枝の濃度は六一〜一〇三%、樹皮の濃度は四八〜一六%と

以外の調査地では、明瞭な変化の傾向はみられなかった。また、いずれの調査地も、森林の地上部の樹木に蓄積する割合が減少し、落葉層や土壌に蓄積する割合が増加していた。

急性放射線障害治療に糸口

東大医学研究

東京大学医学研究所は、高線量の電離放射線にはく露されて起きる急性疾患の新規治療法につながるタンパク質TLR3の働きを発見した。同研究所のウェブサイトに論文解説として掲載されたもの。

放射線に対する感受性は、臓器によって異なるが、消化管は非常に感受性が高く、5Gy以上では腸管障害が誘導され、下痢、吸収低下、細菌性腸炎によって重篤性に死に至る。医学研究所の研究グループは、マウス実験で本来ウイルスの侵入を感知し感染防御に働くTLR3と呼ばれるタンパク質が、放射線誘導性の消化管症候群の病態に密接に関わることを見出し、TLR3の働きを阻害することで、マウスの症状が顕著に改善されることを明らかにした。

本研究結果で、原子力事故による被ばくや、がん治療で腹部に照射した際の副作用により生じる消化管障害の治療への応用が期待される。

燃料輸入増で、膨らむ貿易赤字

財務省は二十二日、一三年度分貿易統計の概要を発表した。原油、液化天然ガスなどの輸入増加により、輸出入差引で十三兆七千四百八十八億円の過去最大の赤字となった。



初日セッション終了後、服部拓也理事長他、登壇者らによる共同記者会見が行われた(II写真)。

記者団から、今後、日本で法令上、原則廃炉となる運転開始四十周年を迎える原子力プラントが増えつつあることについて、海外発表者に向けられた問いに対し、開会セッションで、特別講演を行った元米国原子力学会会長のアンドリュー・カタック氏は、米国では約半分のプラントが既に寿命延長を規制当局に申請している現状を述べ、新規建設、経済的に見合うかを、事業者が検討するものなど心算した。

除染廃棄物管理に活用

ポリマスター社他 フレコンバッグ用測定器

M(II写真)を共同開発し、受注生産・販売を



ベラール社のポリマスター社と産業廃棄物の再資源化で実績のある公協産業は十日、フレコンバッグ専用測定器「PM5300FB」を開発した。

今回の共同開発は、チェルノブイリ事故を経験し先進的な放射線測定技術を持つポリマスター社の技術と、フレコンバッグの検知するプラスチックシンチレーターを用いたもので、測定範囲五百〜十万ベクレル/kgについて、一〜五秒で測定し結果を表示する。

「PM5300FB」は、福島県相馬市で、プロトタイプによる実証試験を行い、性能が確認されている。

規制委、2審査会の委員を決定

原子力規制委員会は十六日、法令に基づき同委員会に設置される原子炉安全専門審査会と核燃料安全専門審査会の委員を決定した。

原子炉安全専門審査会の委員は、岡本満喜子氏(長岡技術科学大学准教授)、甲斐倫明氏(大阪大学准教授)、勝田忠広氏(明治大学准

教授、代谷誠治氏(京都大学名誉教授)、関村直人氏(東京大学教授)、高田毅士氏(東京大学教授)、中川聡子氏(東京都市大学教授)、中島健氏(京都大学教授)、松尾亜紀子氏(慶応義塾大学教授)、村松健氏(東京都立大学客員教授)、米岡優子氏(ロイトレシスタークオリティアシスタンスリミテッドテクニカルオペレーションマネージャー)。

核燃料安全専門審査会の委員は、浅沼徳子氏(東海大学教授)、大江俊明氏(東海大学教授)、岡本満喜子氏(前述)、甲斐倫明氏(前述)、勝田忠広氏(前述)、高田毅士氏(前述)、田中知氏(東京大学教授)、松尾亜紀子氏(前述)、森山裕丈氏(京都大学原子炉実験所所長)、山中伸介氏(大阪大学教授)、米岡優子氏(前述)。

第47回 原産年次大会

共同会見

「信頼回復に向けた決意」に関連し、服部理事長は、依然として原子力発電の再稼働をネガティブにとらえる意見が多いことをあげた上で、「また国民に対する説明が不十分」と深刻に受け止め、「大会を通じてコミュニケーションを深めるきっかけになれば」と述べた。

TENEX

Leading Supplier of Nuclear Fuel Cycle Goods and Services



株式会社テネックス・ジャパン
TENEX-JAPAN Co.,

東京都港区虎の門5丁目11番2号 オランダヒルズ森タワー14F
 (Tel):03-5776-1511 (Fax):03-5776-1512 (E-mail): info@tenex.co.jp